

第2章 情報企画室図書担当

【構成員】

担当教授(兼) : 古原 忠

図書係長 : 真籠 元子 / 図書系職員 : 富田小満子 / 事務補佐員 [3名]

【図書電子化委員会】

委員長 准教授 : 三谷 誠司

委員 准教授 : 大山 研司

助教 : 家田 淳一、藤原 航三、下谷 秀和、佐原 亮二、赤堀 俊和、西島 元

オブザーバー 教授 : 古原 忠

総務課長 : 鈴木 孝

1. はじめに

図書室では、1800年代から今日までの材料科学に関する幅広い領域の資料を収集・所蔵している。金研が歴史的に金属・材料研究の中心であり全国共同利用機関となっていること、さらに物質・材料学では世界の最先端にいることから、所内・学内はもとより国内外からの研究者の来訪も多く、図書室は幅広いサービスを提供している。

2. 組織・運営

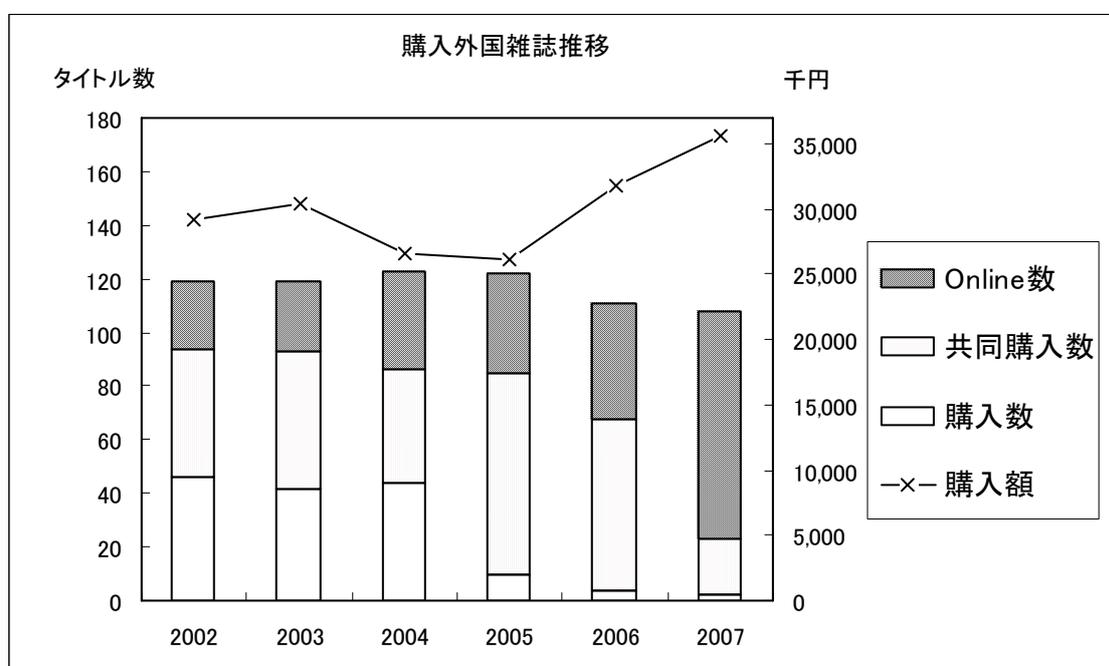
図書室は、図書係として金研事務部総務課に属し、係長を含む職員2名、パート職員3名で業務を行っている。図書室の運営は情報企画室のもとで行われ、その専門委員会として図書電子化委員会が設けられている。

業務の特徴としては、部局図書室としては唯一附属図書館を介さず図書受入・支払→目録・分類→登録の体制を維持し、研究者へ迅速に資料を提供している。また、学術情報のデジタル・コンテンツ化が急速に進展する中、図書室においても素早く適切な対応が要求されているが、これに対応するため若手研究者を中心に構成された図書電子化委員会と連携し利用者の視点に立った電子化整備を推し進めている。研究者と図書室による情報整備に関わる委員会の存在は、学内唯一で特筆すべきことである。外国雑誌価格の高騰や冊子体から電子ジャーナルへの切り替え、二次情報データベースの多様化など様々な問題に係る取り組みが全学的に行われる中で、本所ならではの利用者ニーズを把握しつつ親しみやすく快適な図書室であるよう常に心掛けている。

3. 購読雑誌および電子ジャーナル

「学術情報整備計画」に従い外国雑誌を中心に共同購入をしているが、価格高騰によりタイトルの維持が難しくなっている。2007年は、2006年に行った24タイトル（購入外国雑誌の25%）中止に引き続き、冊子体+電子ジャーナルで契約していた54タイトル中のうち33タイトル（60%）を電子ジャーナルのみ（冊子体中止）の契約とした。しかし、負担額は前年に比べ380万円ほど増加している。外国雑誌の値上がりは毎年約5%で、値上がり率などを含めると大学全体で約3000万円のアップとなることから、さらなる対策が必要である。

また、予てから検討されていた電子ジャーナル等の共通経費化であるが、2008年度に全学的基盤経費が新設され措置される見込みとなった。その金額は共同購入雑誌の半分程度ではあるが、長年要求してきた全学的基盤経費が導入できたということは、情報基盤整備を行っていく上で大きな一歩と言える。



*Online 数は共同購入のうちの電子ジャーナルのみ利用できる数

4. 蔵書管理

書庫の蔵書点検は定期的に行い、所在の確認をしている。

4.1 図書の充実

限られた予算の中で常に図書の充実を図っている。継続購入としては、国際会議録の新刊の追加や欠号補充、個人で購入しにくいシリーズものや Material Science Forum（所内の教員が執筆したものを中心）などを購入しており、その点数は約30点に上る。また、他大学に対し複写依頼の多いものや

物質材料系の基本的な図書（日本金属学会刊行物など）、図書電子化委員から推薦のあったものや新刊カタログなどを元に充実を図っている。

4.2 蔵書点検・実査

附属図書館の中期計画・中期目標に従い、2年計画で蔵書点検・実査を行うことにしていたが2007年度はその2年目に当たり、3号館書庫、閉架書庫、閲覧室の約16,000冊を行った。古い資料が多く作業にかなりの時間を要するため、アルバイト6名を雇い2人1組で現物の資料番号を読み取り、入力する作業を7日間行った。その作業中800冊以上の図書・製本雑誌について、資産から管理図書への変更、重複の整理などを同時にすることができた。

また、年2回行っている蔵書点検も実査とは別に実施し、不明図書、発見図書の確認や配架整備を行った。

4.3 金研出版物の保存

金研で発行する報告書や広報誌などは、可能な限り収集し図書室で保存している。また、ここ数年それらに対する問い合わせなども増えていることから、過去に発行されたものについても収集していきたいと考えているが、過去の欠号補充が困難なものもあり、スペースの問題も含めて今後検討が必要である。最近では、学術文献以外（写真など）の問い合わせも多くなっている。

5. 利用者サービスの充実

利用者との距離が近い部局図書室の利点を活かし、利用者にとってより身近で、行き届いたサービスを提供するよう、スタッフ全員で努力している。

5.1 利用者向け講習会

毎年4月、金研の新構成員のために図書電子化委員を講師に迎え、主要なデータベースの講習と図書室のオリエンテーションを行っている。今年度は58名の参加があった。例年第2部「データベース」の部で説明していた「Online Journal」を第1部②「図書室の利用案内」の中で説明し、また新しいサービスである「MyLibrary」を③として付け加えた。さらに、附属図書館が随時開催する新たなデータベースの説明会等の際は、金研の講堂での開催に積極的に協力し、学生や研究者がより効率的に利用できるようサポートしている。

開催日	内容	主催	参加者
2007.4.26	図書室オリエンテーション	金研図書電子化委員会・図書係	58名

5.2 情報検索コーナー

図書室では図書電子化委員会のサポートを受けながら、多くのデータベースの中から有用なものを

厳選し、図書室の情報検索コーナーで自由に利用できる環境を整えている。2007年度は、無機結晶構造データベースである「ICSD」と無機化合物の結晶構造に関するデータベース「Pearson's Crystal Data」、「ICDD Cards」の検索システムである「X-Search」を新たに導入した。また、データベース用にパソコン4台、Online Catalog用に1台（いずれもWindowsXP）を設置しているが、データベースが年々増えていることもあり、データベース用のパソコン4台を新しいものに買い替えメモリーを増設した。図書室では、利用者が必要な時にいつでも使えるように心掛けている。また安全対策として、ウイルスチェックソフトとハードドライブシールドソフトを導入している。近年、データベースのオンライン化が進み研究室から利用できる環境が整ってきているが、図書室でしか使えない重要なツールもあり、今後も情報検索コーナーの充実を進めていきたい。

CD-ROM	オンライン
ICDD Cards (2007)	Online Catalog (図書館蔵書検索)
Binary Alloy Phase Diagrams	Online Journal
Ternary Alloy Phase Diagrams	Web of Science (1900～)
Pauling File	Alloy Phase Diagrams
Phase Equilibria Diagrams (1913～2003)	SciFinder Scholar (1840～)
Landolt-Bornstein Comprehensive index	ICSD
その他	Pearson's Crystal Data
	Journal Citation Reports Web
	GeNii
	特許電子図書館(特許庁ホームページ)
	その他

5.3 ホームページの充実

図書室では、有用な情報をいち早くキャッチし、「お知らせ」での広報やリンクを作成するなど充実したホームページとなるよう心掛けている。

また、外国雑誌の電子ジャーナル化が進み、予算的な面からも電子ジャーナルのみの雑誌が増えているが、Online Journalのリンク集(金研版)は1ヶ月おきに係員全員でリンクチェックを行うなどきめ細かなメンテナンスを行い、利用に支障のないようにしている。その他にも、冊子体の新着状況を確認できるリンクや利用上のルール案内、情報検索(データベース)に関するQ&Aや使い方なども掲載し、利用者の疑問がホームページ上で解決できるよう充実を図っている。

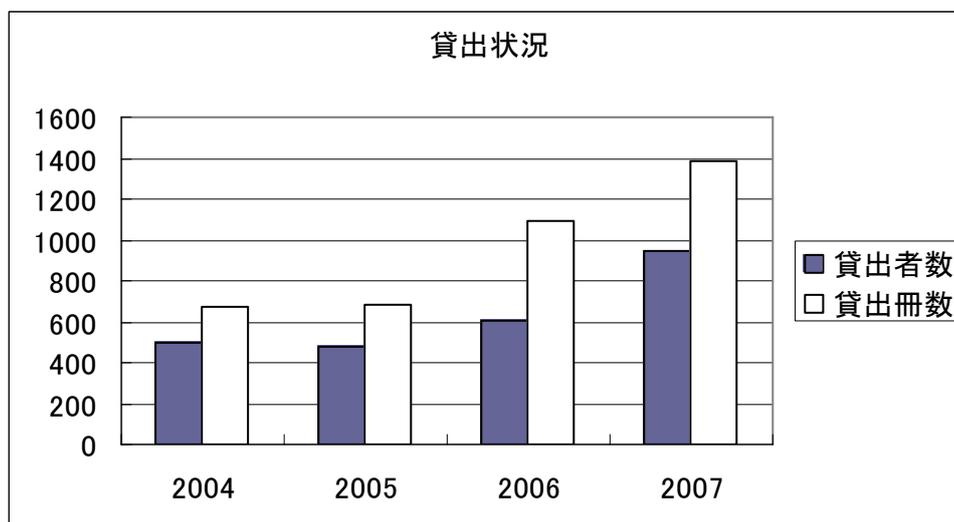
さらに、他にあまり例のない国際会議録のページについては、金研に関連する43会議について、過去の会議録を追跡調査し、最新の所蔵情報も継続して掲載するようメンテナンスを行っている。

5.4 資料の提供

電子ジャーナルやデータベース等デジタル・コンテンツの利用が増大する中で、図書の貸出冊数については次にある貸出状況の図で示されているように、ここ2年間で急激に増加した。貸出者数も冊数ほどではないが増加している。特に基礎的なもの、シリーズとして継続的に受け入れている図書の貸出が多いと予想される。今後も、図書充実に一層努めていきたい。

その他に増加の大きな原因として、2006年度に試行、2007年度から本稼働したキャンパス間資料搬

送サービスが考えられる。このサービスは、利用者が指定する図書館（室）に取り寄せ貸出・返却を行うことができるというもので、他キャンパスはもとより、片平地区内にある他の研究所図書室についても対象となっている。利用者には大変好評で、取り寄せられる冊数も当初の2冊から5冊までとなった。



5.5 その他

3号館書庫は通常は施錠されており夜間、休日等は利用できず、平日利用する際もカウンターで鍵の貸出を受けなければならない状況であった。そこで、閲覧室や2号館書庫と同様に24時間利用できる環境にするため入退システムを導入し、学生証・身分証でいつでも入退室できるよう設備を整えた。その他、資料を持ち出さなくともその場で複写できるように、コピー機を設置した。

また、図書室に設置している、コピー機のコピーカードの管理は各研究室に依頼しているが、その状況を把握するため毎年調査を行っている。

次に、2007年度はグローバルCOEの英語教育強化に基づき、英語のeラーニング教材「NetAcademy2」を工学部国際交流室の協力を得て導入した。利用できるコースは、1. スーパースタンダードコース、2. 技術英語基礎コース、3. 技術英語パワーアップコース、4. ライティング基礎コース、5. PowerWordsコースプラスの5コースである。これらの教材を利用するためには予めアカウント/パスワードの登録が必要だが、教育支援という観点から登録を図書室で行っている。「NetAcademy2」は学内のパソコンであればどこからでも利用可能であるが、特に英語教育用のスペースとして2号館303号室に教育プログラム室を設置した。この室は、パソコン2台の他に英語に関する辞典・マニュアル、ミーティングができる椅子やテーブル、プロジェクターなどを備えており、少人数制の英語クラスなどが実施できるようになっている。

6. 文献複写（図書館間相互利用サービス）

学内の各図書館および学外の大学図書館との相互の文献複写サービスは、研究上、学術雑誌論文が欠かせない金研においては重要な業務であり、必要な論文を依頼から1週間以内に利用者へ手渡せる

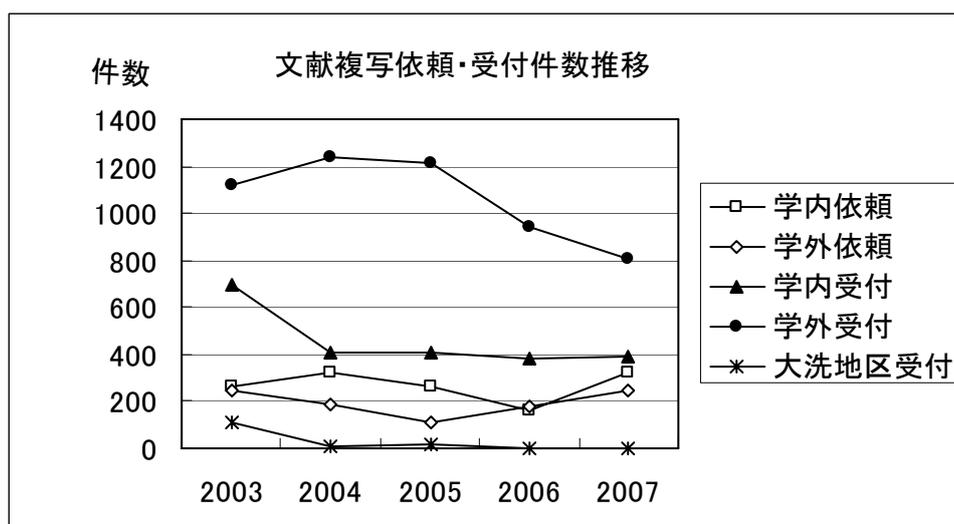
よう迅速に処理している。学術雑誌の電子ジャーナル化の影響で全国的に相互利用の件数は減少傾向にあるが、金研は主要な学術雑誌（電子ジャーナル含）のコレクションが充実しているため、2007年度は、学外の受付件数が依頼件数の約3倍以上になっており、図書室の業務の中で占める割合も年々増加している。前年度比では、学内外共に依頼件数が増加し受付件数が減少しているが、これは学術情報整備計画により中止された雑誌による影響が考えられる。

また、文献を画像化してオンラインで送受信する画像伝送システムも学内を中心に利用されているが、学内ではe-DDS(※)が導入され、それによる件数が飛躍的に伸びた。e-DDSの文献は、学内所蔵の文献に限り「MyLibrary」から申し込むことができる。利用可能な期間が2週間で、依頼者本人が一部のみプリントアウト可能、電子的に保存できないなど、様々な制約はあるが研究室に居ながらにして申し込み、受け取りができる便利なシステムである。

今後の課題としては、現物貸借や私費複写の対応などがあるが、私費の取り扱いについては関係する係と話し合いは行ったが、結論にはいたらず検討中である。

※e-DDS:Electronic Document Delivery Services

(必要な文献を研究室等のパソコンから入手可能とするサービス)



	依頼			受付			
	学内	学外	計	学内	学外	大洗地区	計
2003年度	259(36)	249(1)	508(37)	699(57)	1,118(16)	108	1,925(73)
2004年度	320(88)	190(1)	510(89)	410(33)	1,236(19)	10	1,656(52)
2005年度	260(54)	108(8)	368(62)	411(9)	1,217(11)	13	1,641(20)
2006年度	161(40)	177(2)	338(42)	384(4)	944(11)	8	1,328(15)
2007年度	326(71)	244(8)	568(79)	389(28)	803(19)	1	1,200(47)

* ()は画像伝送システムによる件数(内数)

* 大洗地区は金研附属施設からの依頼に対する送付

* 学外からの現物借用件数は含まず

7. その他

研究支援の場としての役割が益々重要となり、図書室は利用者のニーズに応えるべく多様なサービスが求められることから、研究会、勉強会に積極的に参加している。また、図書系職員として附属図書館が中心になって進めている、各種委員会やワーキンググループのメンバーの一員として活動している。

7.1 研修、勉強会

- ・ 目録システム地域講習会（図書コース）
- ・ 目録システム地域講習会（雑誌コース）
- ・ 著作権講習会
- ・ SciFinder Scholar 説明会
- ・ 附属図書館新人研修
- ・ フレッシュパーソンセミナー

7.2 各種委員会、ワーキンググループ、会議等

- ・ 学術情報整備 WG
- ・ 学術情報発信 WG
- ・ 附属図書館商議会（陪席）
- ・ 附属図書館運営会議（陪席）
- ・ 学術情報検討委員会（陪席）
- ・ 分野別資料選定 WG（陪席）